

報道機関各位



① 予定 6/20トークイベント開催

「ローカル鉄道のために、僕たちには何ができるだろう」

（南阿蘇鉄道の現状と、あまり表に出ない大きな課題も報告）

② 報告 「若さが魅せた、書之力」書道イベントで

鉄の道第 10 弾の「鉄の道」の文字をお披露目



全国のローカル鉄道とその近隣の酒蔵とを結び付けた地域活性化事業「鉄の道」プロジェクト。美味しい食べ物等も含め、魅力的な旅をプロデュースし、鉄道の乗客と地域訪問者を増やし、日本と地方を元気にします。その、最近の活動をお知らせします。

① 「鉄の道トーク」開催

「鉄の道プロジェクト」は、多彩な方々とのコラボレーションで取り組みます。この企画では、鉄道ファン、旅行ファンの方々に、様々な角度からの楽しい情報、興味深いお話をお伝えしていきます。

厳しい経営状態が続くと言われる全国のローカル鉄道。多数のイベントやツアーも開催されていますが、その時以外、また通勤・通学以外は、空席が目立つようです。その解消に向けた鉄道側の努力もありますが、では鉄道ファンは何ができるでしょう。各地の現状を確認しながら、それを熱く、深くお話ししましょう。「あなたの大好きなモノ」をいつまでも残していくために。

※今回は、大きな地震に見舞われた南阿蘇鉄道の被害状況、特に報道にはあまり現れていない、ローカル鉄道ならではの課題等も、現地写真を交えて報告させていただきます。

■日時 2016年6月20日(月) 19:20:30(開場 18:30) ■定員 先着 30名 ■入場無料

■会場 書泉グランデ 7F イベントスペース <https://www.shosen.co.jp/grande/>
東京都千代田区神田神保町 1-3-2 ※神保町 A7 出口より徒歩 1 分
※書籍等の販売コーナーも設けます。

■出演 **東洋経済・大坂直樹氏** (同誌臨時増刊「鉄道全真相 2016」編集長)
鉄道企画株式会社・高橋茂仁氏 (各地の鉄道会社のグッズや鉄道音 CD の制作、鉄道ファン向けの各種ツアー・イベントの企画・運営/鉄の道プロジェクトプランナー)

■申込方法 下記メールアドレスに、参加希望の方のお名前、参加希望者の人数をご連絡ください。

※当日は、各地の日本酒「鉄の道」もご紹介いたします。

★鉄の道のホームページ

<http://www.tetsunomichi.net/>

★クラウドファンディングのページ

<https://a-port.asahi.com/projects/tetsunomichi-isumi>

合同会社 地域力創発(ちいきりよく そうはつ)

Tel.090-7639-6124 wayofiron@gmail.com

担当：森本言也 〒214-0034 神奈川県川崎市多摩区三田 3-1-2-1-401
Fax.044-900-9492 <http://www.tetsunomichi.net/>



②報告 書道イベントで、鉄の道第 10 弾、 藤娘酒造からの「鉄の道」の文字をお披露目 「一夜限りの書道パフォーマンス」

5月15日(日)、四万十市文化センター大ホールにおいて、高知県立中村中学高等学校の書道部(全53名)による書道パフォーマンスが開かれました。

雨模様の中、地域の方々約600人が、見事なパフォーマンスに酔いしれました。巨大な筆を持ち、ポップスの楽曲に乗り、息の合ったリズムカルな揮ごうと、詩の朗読、歌、ダンス等を組み合わせたアートパフォーマンスは、いずれも見事な表現でした。会場には四万十市長・中平正宏様も来場されたほか、中村高校出身のアーティスト岡本真夜様からの応援メッセージが、代表曲「Tomorrow」が流れる中で代読され、地域を元気にしたいという学生たちの後押しになり、また今後の地域の方々への応援にもなったものと思われます。



そのイベントの中、藤娘酒造(高知県四万十市)の新しいお酒「鉄の道」の文字が発表されました。藤娘酒造、土佐くろしお鉄道の方も壇上からお礼を述べられ、万雷の拍手で迎えられました。同部が取り組んだ多数の候補作品の中から選ばれた書は、女生徒さんの作品にも関わらず、南国土佐をイメージする力強い文字でした。このお酒は6月中下旬には発売予定です。



合同会社 地域力創発(ちいきりよく そうはつ)

Tel.090-7639-6124 wayofiron@gmail.com

担当: 森本言也 〒214-0034 神奈川県川崎市多摩区三田 3-1-2-1-401
Fax.044-900-9492 <http://www.tetsunomichi.net/>



資料1. 【鉄の道プロジェクトの特徴】

■①「鉄道」「酒」から、「旅」「美味しい食べ物」にまで拡大



「ローカル鉄道」と「日本酒」が切り口ですが、「旅」や、日本酒の相棒とも言うべき「美味しい食べ物」までを含みます。鉄道ファンを皮切りに、多くの旅好きな方、美味しい食べ物が好きな方等が、思わず足を運んでしまう「魅力的な旅のプラン」を作り実践。それにより鉄道ファンだけでなく国内旅行を楽しむ年間約5600万人が対象になります。

■②多彩なジャンルの専門家の参画

本事業には多彩なジャンルの専門家が**プランナー**として参加されます。今、人々の関心ジャンルは多岐にわたっているため、様々なジャンルの専門家による多彩なプラン作りに挑みます（詳細は後述）。

■③目標は「お遍路さん」のような仕組み作り



各地で特別列車の走行や鉄道イベントの開催は可能ですが、それを地域活性化の手段とすると、膨大な回数の継続開催が必要。またイベント時、ツアー時しか人が訪れないと乗客数拡大には限界があります。そこで四国の「お遍路さん」のように、ある種の仕組み、構造作りにより、イベント時以外でも多くの方が継続訪問して下さる状況を作ります。

■④プランニングだけでなく「汗を流す」

私たちはコンサルティング業ではなく、地域の方々とともに企画を作りつつ、イベントもツアーも、地域の方々と一緒に**実施・運営**し汗を流します。

【クラウドファンディング開始。第1弾は千葉県「いすみ鉄道」】



本事業の資金は市民の方々にご出資いただくクラウドファンディングも活用（2016年4月23日、朝日新聞社で開始）。路線ごとに個性豊かな内容にし、順次出資募集。**あなたの想いを形にします**。第1弾は千葉県「いすみ鉄道応援プロジェクト」。出資者には、出資額に応じて「リターン」という様々な「もの」や「機会」をご提供。今回はいすみ鉄道と大多喜町のご協力により、「特別車両（キハ52、キハ28）撮影会」、「地域の美味しいもの体験ツアー」、「レプリカサボ」、「1日駅長体験」等をご用意しました。

※いすみ鉄道

：千葉県房総半島の中央から太平洋まで東西に横切り、首都圏からわずか1-2時間で行けるアクセスの良い路線。春の菜の花と桜は見もの。アニメキャラクター「ムーミン」のイラストが施された車両が人気で、沿線は海の幸、山の幸が豊富（タケノコ、ジビエ料理等）。ここで「鉄の道」を作ってくださっているのは、いすみ市大原の**木戸泉酒造**。

※出資をお願いする主な対象者

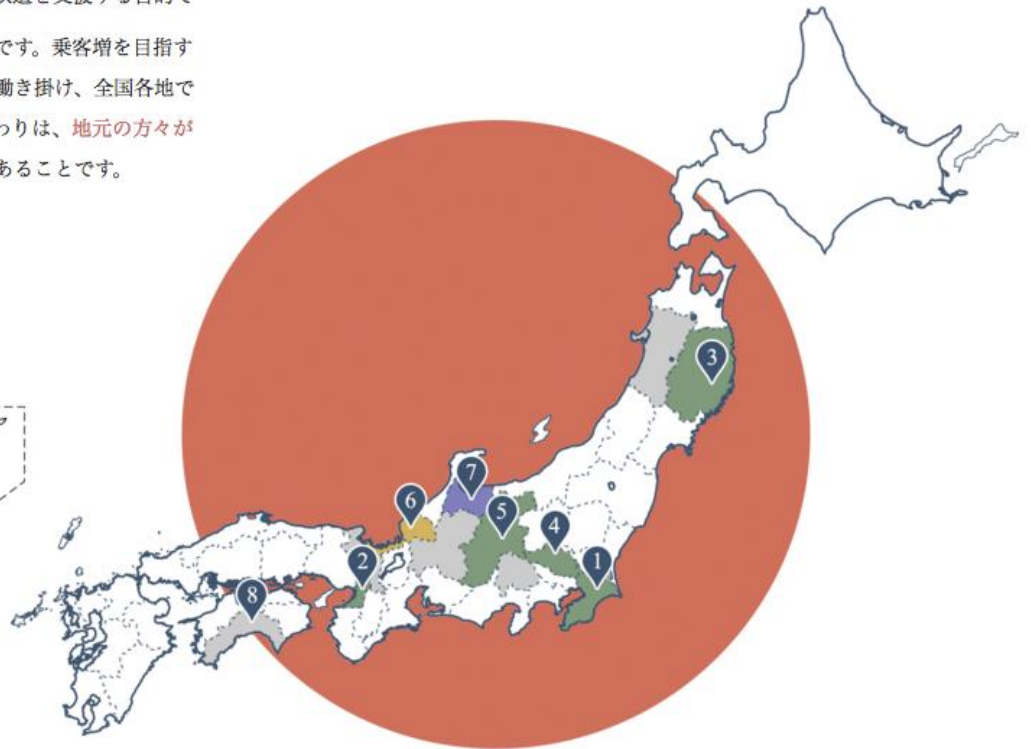
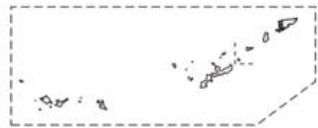
- 「各地で疲弊している鉄道をどうにか残したいと思っらっしゃる、**鉄道ファン**の方」
- 「故郷を元気にしたいと思っらっしゃる、**地元出身**の方」
- 「各地の酒蔵を応援したいと思っらっしゃる、**酒好き**の方」
- 「各地の魅力を残したい、これからも楽しみたいと思っらっしゃる、**旅好き**の方」等

※クラウドファンディングサイト : 「A-port」 <https://a-port.asahi.com/projects/tetsunomichi-isumi>

資料2. 【「鉄の道」登録状況 ～ 2016年4月現在】

「鉄の道」は、ローカル鉄道を支援する目的で

開発した日本酒の、全国共通銘柄です。乗客増を目指すローカル鉄道とその地元の酒蔵に働き掛け、全国各地で展開していきます。私たちのこだわりは、**地元の方々が愛してやまない「いつもの酒」**であることです。



展開中	販売完了
調整中	準備中

<p>1 千葉県 いすみ鉄道／木戸泉酒造</p> 	<p>2 大阪 水間鉄道／井坂酒造場</p> 	<p>3 岩手県 三陸鉄道／福来・浜千鳥</p> 
<p>4 埼玉県 秩父鉄道／武甲酒造 ・矢尾本店</p> 	<p>5 長野県 しなの鉄道／沓掛酒造</p> 	<p>6 福井県 えちぜん鉄道／一本義久保 【販売完了】</p> 
<p>7 富山県 富山地方鉄道／銀盤酒造 【調整中】</p>	<p>8 高知県 土佐くろしお鉄道／藤娘酒造</p>	

【現在販売中のところ】

千葉県	いすみ鉄道	／	木戸泉酒造
岩手県	三陸鉄道	／	福来 浜千鳥
埼玉県	秩父鉄道	／	武甲酒造 矢尾本店
長野県	しなの鉄道	／	沓掛酒造
大阪府	水間鉄道	／	井坂酒造場（ホームページ無し）

資料3.

鉄の道の考え方



日本は「水と米の国」。その象徴の1つが日本酒です。また日本は「ものづくりの国」でもありますが、その象徴の1つが鉄道です。いずれも日本の基幹産業でしたが、多くが疲弊しているのが現状。そこでこの2つをセットにして応援しようと、2009年に「鉄の道」プロジェクトを開始しました。

地域活性化には、地域で長く培われてきた個性（多彩な知見と経験、文化、技、歴史、産業等）を盛り上げることが大切だと私たちは考えます。しかしお酒と鉄道だけで地域を盛り上げることは大変なので、次のことに着目しました。

まずお酒。飲酒人口も酒消費量も落ち込んでいますから、お酒のPRだけでは地域活性化には結びつきにくいですが、各地のお酒には必ずそこに、お酒とマッチする美味しくて個性的な食べ物があります。一方、「鉄道に乗ろう」という呼び掛けは、鉄道ファンの方以外には、なかなか響きにくい可能性があります。しかし鉄道乗車を目的ではなく「手段」とすれば、各地への「旅」や「観光」を含められます。

つまり「日本各地へ旅し、美味しいものとお酒を楽しみ、美しい風景や気持ちのいいことを楽しむ」。そんなゆったりした旅には、鉄道がうってつけです。こう考えると、多くの人々の関心を集めやすくなりますし、多彩な事業が組みやすくなり、そして地域活性化につなげられる可能性が高くなります。

創設の思い

「鉄の道」は純米酒が条件になっています。その土地の水と米、そして蔵元の酒造りの技と心意気が、自信と自慢、そして愛着が地域力だからです。それは、地元の鉄道とコラボして、地域を元気にします。全国の「鉄の道」ネットワークで、地方に活力を醸し出しましょう。地方復権！日本再生！「鉄の道」が触媒になります。



佐藤建吉

「鉄の道」発案者&合同会社地域力創発 Founder。元千葉大学大学院准教授。「フレッシング（やっかい）疲労」の研究で工学博士を取得したが、その研究から「地域の疲弊」の解決ツールとして「鉄の道」を考案。

運営主体：合同会社地域力創発

創設者・佐藤建吉とともに、地域活性化と社会貢献を目的に、各地に温かい思いをプレゼントしようと、2014年クリスマス（12月25日）に4人の事業者が設立。